

授業科目名：人体構造 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大迫 正文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の多くの器官に共通する構造を、総論的に説明できる。 2. 人体各器官の構造名称の英語表記が理解できる。 3. 健康スポーツ学に関する専門的知識や技能を統合し、高い専門性を駆使して問題解決能力を習得できる。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人体各器官に共通する構造として、上皮組織、結合組織（支持組織、軟骨組織、骨組織を含む）、筋組織および神経組織が挙げられる。当授業ではそれらの構造をプレゼンして組織学的に説明するとともに、それらが各器官においてどのような機能的な役割をなしているかについて解説する。 ・当授業では各器官の顕微鏡観察レベルの構造を中心に学ぶ。定性的な分析のほか、統計的手法を用いた科学的な検証手法についても説明し、健康づくりのためのプログラムを立案・実施するための高度な専門的知識および技能、調査手法を解説する。 ・本授業は英語文献に慣れることも意図し、教科書に洋書を用いて各器官の構造を学ぶ。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 細胞学（核）</p> <p>第3回 細胞学（細胞小器官）</p> <p>第4回 細胞学（細胞周期）</p> <p>第5回 上皮組織（上皮組織の分類特徴）</p> <p>第6回 上皮組織（腺組織）</p> <p>第7回 支持組織（結合組織）</p> <p>第8回 支持組織（軟骨組織）</p> <p>第9回 支持組織（骨組織）</p> <p>第10回 支持組織（血液）</p> <p>第11回 筋組織（骨格筋）</p> <p>第12回 筋組織（心筋、平滑筋）</p>			

第13回 神経組織 (中枢神経)

第14回 神経組織 (末梢神経)

第15回 まとめ

テキスト

・ Junqueira, L. C. and J. Carneiro : Basic Histology-Text and Atlas. 15th ed., MacGraw Hill, 2018年

・ 藤田尚男、藤田恒夫『標準組織学(各論)』医学書院、第5版、2017年度

参考書・参考資料等

・ 藤田尚男、藤田恒夫『標準組織学(総論)』医学書院、第5版、2015年

学生に対する評価

東洋大学の評価基準に準拠し、課題に対する取り組み姿勢とや授業内容に対する理解度ならびにレポートにより評価する。

授業科目名：人体組織学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大迫 正文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の各器官の機能をもたらすそれぞれの構造を、各論的に説明できる。 2. 人体各器官の構造名称の英語表記が理解できる。 3. 健康スポーツ学に関する専門的知識や技能を統合し、高い専門性を駆使して問題解決能力を習得できる。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康スポーツ学の研究を行う上で必要とされる、人体各器官の構造について各論的に説明する。そこでは、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、などについても肉眼的ならびに組織学的な構造をプレゼンし、各器官や組織の形態学的な情報のとり方や分析法について解説する。 ・当授業では各器官の顕微鏡観察レベルの構造を中心に学ぶ。定性的な分析のほか、統計的手法を用いた科学的な検証手法についても説明し、健康づくりのためのプログラムを立案・実施するための高度な専門的知識および技能、調査手法を解説する。 ・本授業は英語文献に慣れることも意図し、教科書に洋書を用いて各器官の構造を学ぶ。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 消化器系（口唇、歯、舌、唾液腺）</p> <p>第3回 消化器系（咽頭～腸）</p> <p>第4回 消化器系（肝臓、膵臓）</p> <p>第5回 呼吸器系（鼻腔、喉頭）</p> <p>第6回 呼吸器系（肺、縦隔）</p> <p>第7回 泌尿器系（腎臓）</p> <p>第8回 泌尿器系（尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第9回 男性生殖器</p> <p>第10回 女性生殖器</p> <p>第11回 神経系（大脳、中脳、間脳、小脳）</p> <p>第12回 神経系（橋、延髄、脊髄、神経節）</p> <p>第13回 内分泌系（下垂体、副腎、松果体、膵島）</p>			

第14回 脈管系（心筋、大動脈、毛細血管、静脈、脾臓）

第15回 免疫系

テキスト

・Junqueira, L. C. and J. Carneiro : Basic Histology-Text and Atlas. 15th ed., MacGraw Hill, 2018年

・藤田尚男、藤田恒夫『標準組織学(総論)』医学書院、第5版、2015年

参考書・参考資料等

・藤田尚男、藤田恒夫『標準組織学(各論)』医学書院、第5版、2017年度

学生に対する評価

東洋大学の評価基準に準拠し、課題に対する取り組み姿勢とや授業内容に対する理解度ならびにレポートにより評価する。

授業科目名：運動制御 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古川 覚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義において生命現象から身体活動までを化学反応を含む生体物質のはたらきにより理解できることをねらいとし、生命科学を学ぶ第一歩としたいと考えている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>遺伝、発生、代謝さらには免疫などの複雑な生命現象は、酵素などのタンパク質をはじめとする様々な生体物質の働き（反応）として説明することができる。特に近年は、生命現象を分子レベルで理解し、それらがいかに制御されているかを研究する「分子生物学」の発展により、DNA分子だけでなく、脳活動、筋活動、疲労などにおいても関与する生体物質が次々に明らかにされている。それらの生体物質とその働きを理解することは、複雑な生命現象をモデル化して認識することができるため、生命科学を学ぶことの楽しさを味わうことが可能になる。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 2) 代謝の制御（基礎） 3) 代謝の制御（応用） 4) 代謝の制御（発展） 5) 筋活動と疲労 6) 筋活動と中枢の疲労 7) 発生と分化の誘導 8) 遺伝の制御 9) 内分泌による基本機能の制御 10) 内分泌による運動・生殖の制御 11) 免疫の基礎 12) 免疫の応用 13) 発表およびディスカッション（前半） 14) 発表およびディスカッション（後半） 15) 学修到達の確認 			

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

「基礎生化学」池田和正，オーム社，2006年

学生に対する評価

成績評価の方法

授業時の発表（50%）およびレポート評点（50%）により評価する。

成績評価の基準

生体物質のはたらきを理解できているか否かが重要な評価基準となる。

学修到達目標に達しているかどうか単位認定の基準となる。東洋大学の成績評価基準に準拠する。

授業科目名：運動生理学・生化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今 有礼 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動による身体の応答とトレーニングによる身体の適応について理解し，説明できる。 2. 運動トレーニングと適切な栄養摂取の効果やその効果のメカニズムについて理解し，説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>運動の継続（トレーニング）や適切な栄養摂取が，健康の維持増進や運動能力の向上に効果的であることは，一般的に認識されている．しかし，その一方で，運動トレーニングや栄養摂取の効果のメカニズムに関しては広く知られていないのが現状である．本講義では，運動トレーニングや適切な栄養摂取の効果やそのメカニズムについて，運動生理学・生化学の最新の知見を踏まえながら学習し，日々の実生活に活かせる知識を習得することを目的とする．</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：運動生理学・生化学の概要</p> <p>第2回：筋肉の種類と構造</p> <p>第3回：運動トレーニングと骨格筋の適応</p> <p>第4回：運動強度および運動時間とエネルギー供給機構</p> <p>第5回：運動トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回：運動前後の効果的な栄養補給法</p> <p>第7回：糖質代謝とグリコーゲンローディング</p> <p>第8回：運動強度および運動時間と免疫の応答</p> <p>第9回：運動トレーニングによる免疫機能の変化</p> <p>第10回：暑熱・寒冷環境下での運動と身体応答</p> <p>第11回：暑熱・寒冷環境下での運動トレーニングと身体の適応</p> <p>第12回：暑熱・寒冷環境下での運動時の暑さ・寒さ対策</p> <p>第13回：高地・低酸素環境下での運動と身体応答</p> <p>第14回：高地・低酸素環境下での運動トレーニングと身体の適応</p> <p>第15回：授業のまとめ、試験</p>			
テキスト			

使用しない。

参考書・参考資料等

田中喜代次・西平賀昭・征矢英昭・大森 肇 監訳「運動生理学大辞典」西村書店

運動生理学・生化学に関連する国際誌（J. Appl. Physiol, Med. Sci. Sports Exerc. 等）

学生に対する評価

東洋大学の成績評価基準に準拠します。

課題レポート 30%，試験 70%

出席が10回に満たない場合は評価の対象としません。

授業科目名：学校保健 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内山 有子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校基本調査や学校保健統計などの文献や書籍を用いて、学校保健の現状を説明できる。 2. 児童生徒の健康実態を把握し、学校における個人および集団の健康課題を見つけ出すことができる。 3. 学校保健活動に関する理解を深め、問題解決への方法を探求することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>学校保健とは学校管理下での児童生徒の精神的・身体的健康を保持増進し、学校生活を健康的に過ごす能力や知識を身につける教育活動をさす。</p> <p>本授業では、学校保健の領域で扱われる健康問題を広く取り上げ、学校現場で求められる学校保健の知識や、教員として携わる学校保健活動などについて学ぶ。そして、児童生徒の健やかな成長についてさまざまな角度から検討を行い、学校教育における学校保健の重要性について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 学校保健とは（ガイダンス）</p> <p>第2回 学校保健としての健康教育</p> <p>第3回 学校保健の歴史①（明治から大正期）</p> <p>第4回 学校保健の歴史②（昭和から現代）</p> <p>第5回 子どもの発育発達①（現状と課題）</p> <p>第6回 子どもの発育発達②（評価方法）</p> <p>第7回 子どもの心身の発達と体育</p> <p>第8回 現代的な健康課題の現状と対策①（感染症）</p> <p>第9回 現代的な健康課題の現状と対策②（予防接種）</p> <p>第10回 現代的な健康課題の現状と対策③（生活習慣病）</p> <p>第11回 現代的な健康課題の現状と対策④（メンタルヘルス）</p> <p>第12回 学校における応急手当①（外科的対応）</p> <p>第13回 学校における応急手当②（内科的対応）</p> <p>第14回 学校における応急手当③（関係機関と連携）</p>			

第15回 学校における健康課題の発見 (学習のまとめ)

テキスト

大澤清二著『学校保健の世界 第2版』 2016年 杏林書院 (ISBN:978-4-7644-0536-3)

参考書・参考資料等

衛藤隆・岡田加奈子編集 『学校保健マニュアル 改訂9版』 南山堂

学生に対する評価

学修到達目標に達しているかどうか単位認定の基準となる。

東洋大学の成績評価の基準に準拠し、リフレクションペーパーによる理解度 (30%)、授業への参加度 (30%)、学期末のレポート (40%) により評価する。

授業科目名：健康文化 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木内 明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康の文化的な側面について説明できる。 健康の指標が社会や文化ごとに異なることについて説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>とかく生理学的な数値によって判断される「健康」という評価基準について、日本をはじめ、世界における数値の根拠や時代的な変遷を確認しつつ、それが科学の発展度合いや政治的な事情によっても異なる現実から、医学のみでは測れないその文化社会的な側面について講義する。また、世界各地で異なる健康観や理想とされる身体観、あるいは、それぞれの社会に伝わる伝統医療の具体的な事例を紹介しつつ、健康の文化的な多様性と、普遍性について論じる。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康とは 文化とは 健康の文化的側面 健康の社会的側面 健康観の歴史 身体観の歴史 古代中国における健康観と医療文化 東洋における健康観と医療文化 古代社会における健康観と医療文化 近現代社会における健康観と医療文化 キリスト教社会における健康観と医療文化 南アジア社会における健康観と医療文化 健康文化に関する論文のクリティカルリーディング まとめ 			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

『病いの語り-慢性の病いをめぐる臨床人類学-』 誠信書房 アーサー・クラインマン 著

学生に対する評価

プレゼンテーションやレポートの内容等について、60点以上にて単位を与える。

東洋大学の成績評価の基準に準拠する。

授業科目名：スポーツ 史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 谷釜 尋徳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ史の対象と領域の広がりを理解できる。 2. スポーツ史の各テーマに対する研究法を理解できる。 3. スポーツ史に関わる研究テーマを設定し、その研究法をデザインできる。 4. スポーツ史への理解を通じて、世界に広がる多様な価値観を学び、深く哲学する姿勢を身に付けることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツ史学とは、現代のスポーツ界に内在する諸問題に対して、その解決の手がかりを過去の世界に求める学問である。本特論では、スポーツにまつわる事象がどのような成り立ちを有し、どのような要因によって移り変わっていったのか、時間（どの時代か）、空間（どの地域か）、対象（どのスポーツ現象か）を変えながら、多様な切り口から考察する。</p> <p>また、スポーツ史の対象と領域を踏まえたうえで、どのようなテーマに対して、どのような方法で研究すればよいのかを理解することも狙いとする。多様な広がりをもつスポーツの歴史的な世界を概説しながら、研究としてのアプローチの仕方を講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ史を学ぶ意味（ガイダンスを含む）</p> <p>第2回 スポーツ史の研究対象</p> <p>第3回 スポーツ史の研究領域</p> <p>第4回 スポーツ史の史料の取り扱いと収集方法（古文書、雑誌、絵画、インタビュー）</p> <p>第5回 オリンピックの歴史とその研究法</p> <p>第6回 スポーツ用具の歴史とその研究法</p> <p>第7回 スポーツ技術の歴史とその研究法</p> <p>第8回 スポーツ産業の歴史とその研究法</p> <p>第9回 スポーツ倫理の歴史とその研究法</p> <p>第10回 日常のしぐさの歴史とその研究法</p> <p>第11回 スポーツ科学の学問の歴史とその研究法</p> <p>第12回 古代・中世日本のスポーツの歴史とその研究法</p>			

第13回 近世日本のスポーツの歴史とその研究法

第14回 日本史上の著名人のスポーツ史的考察とその研究法

第15回 講義のまとめと理解度の確認

テキスト

講義のテーマに沿った資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

- ・寒川恒夫編、図説スポーツ史、朝倉書店、1991年
- ・小谷究、及川佑介、谷釜尋徳著、バスケットボール競技史研究概論、流通経済大学出版会、2018年
- ・谷釜尋徳著、江戸のスポーツ歴史事典、柏書房、2020年

学生に対する評価

学期末に提出するレポート（50%）、毎回の授業時に行うディスカッションの質疑応答の内容（20%）、毎回の授業時に提出する小レポート（30%）によって評価する。

授業科目名：アスレティックコンディショニング特論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩本 紗由美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：アスレティックコンディショニングに関わる要因とスポーツ現場にて実践するためのシステムについて概説する。特に体力的な視点からコンディショニングとスポーツパフォーマンスの関係を解説する。実際のスポーツ現場で取り組まれているコンディショニングとコンディショニング研究について解説する。</p> <p>到達目標： アスレティックコンディショニングについて概念、具体的な要因とその相互関係が理解できる。アスレティックコンディショニングに関わる専門的な用語が理解できる。アスレティックコンディショニングに関する研究論文について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツ現場での「アスレティックコンディショニング」について概説する。コンディショニングに関わる要因についての説明、及び要因同士の関連性について説明する。特に体力的な要因がスポーツパフォーマンスに与える影響については先行研究を活用しながら、その現状理解を深める。さらに、スポーツ現場で実際に起きているコンディショニング不良例を取り上げ、プリベンションとリコンディショニングの重要性について解説する。最終的には本領域における研究方法についても学習していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方について説明</p> <p>第2回 概論：アスレティックコンディショニング</p> <p>第3回 コンディショニングに影響を与える要因（内的要因）</p> <p>第4回 コンディショニングに影響を与える要因（外的要因）</p> <p>第5回 アスレティックコンディショニングシステム</p> <p>第6回 コンディショニングに関わる要因（体力とスポーツパフォーマンス：体格・持久力を中心に）</p> <p>第7回 コンディショニングに関わる要因（体力とスポーツパフォーマンス：筋力・スピードを中心に）</p> <p>第8回 コンディショニングに関わる要因（体力：持久力とスポーツパフォーマンス）</p> <p>第9回 コンディショニングに関わる要因（体力：スピードとスポーツパフォーマンス）</p> <p>第10回 プリベンションとリコンディショニング</p>			

- 第11回 スポーツ外傷・障害のプリベンションとリコンディショニング（ケーススタディ）
第12回 健康問題のプリベンションとリコンディショニング（ケーススタディ）
第13回 アスレティックコンディショニング研究方法
第14回 スポーツ現場におけるアスレティックコンディショニングの現状
第15回 アスレティックコンディショニングについてのディスカッションとまとめ

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

- 1, Essentials of Strength Training and Conditioning: National Strength and Conditioning Association /HUMAN KINETICS/Thomas R. Baechle 2008
- 2, Performance Assessment in Strength and Conditioning Edited By. Paul Comfort., Paul A. Jones., John J. McMahon Routledge, 2018
- 3, Sports Injury Prevention and Rehabilitation David Joyce Routledge 2015

など

学生に対する評価

1. 最終レポート（70%）
2. 授業への取り組み（ディスカッションへの参加）30%

尚、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

授業科目名：ハイパフォーマンステ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土江 寛裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>競技スポーツにおいてはそのパフォーマンスの向上が最も重要な課題であり、目的である。そのパフォーマンスがどのように実現されているのか、どのようなトレーニング方法で高いパフォーマンスに到達できるのか、さまざまなスポーツ種目におけるパフォーマンスの向上について、スポーツ科学の各分野の視点から理解することを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、さまざまな競技スポーツにおけるパフォーマンスの構造分析やその向上方法を、テキストやその他研究論文、記事等をもとに事例的に取り上げて検討する。さらにそれぞれの専門とするスポーツへの応用方法を議論する。受講者が個別に、もしくはグループとなり、主体的に調査した事項をプレゼンテーションし、他の受講者とともにディスカッションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業の概要、評価の方法、授業の取り組み方について解説する 2. 競技特性を考える（技術と体力）：スポーツ別の競技特性の違いを理解する（個人競技と団体競技、生理学的特性、技術的特性等） 3. スポーツパフォーマンスにおける技術の概要（バイオメカニクス）：ハイパフォーマンスをかたちづくる動作や技術 4. スポーツパフォーマンスにおける技術のトレーニング：動作や技術の改善方法、トレーニング方法 5. スポーツパフォーマンスにおける体力（持久力）の概要（スポーツ生理学）：持久系種目のスポーツ生理学的特性 6. スポーツパフォーマンスにおける体力（持久力）のトレーニング：持久系種目のパフォーマンス向上のためのトレーニング 7. スポーツパフォーマンスにおける体力（筋力・パワー）の概要（スポーツ生理学）：パワー系種目における筋力・パワーの特性 8. スポーツパフォーマンスにおける体力（筋力・パワー）のトレーニング：パワー系種目における筋力・パワーのトレーニング 9. ハイパフォーマンスを実現するためのトレーニング計画：トレーニング科学、ピリオダイ 			

<p>ゼーションについて理解する</p> <p>10. スポーツパフォーマンスを補助する環境、道具、用品：パフォーマンスに影響を与えるシューズやウェアの開発について</p> <p>11. トップスポーツ選手を取り巻く環境（スポーツマネジメント）：プロスポーツ、アマチュアスポーツの現状、選手のセカンドキャリアなど</p> <p>12. 種目別パフォーマンス向上の具体的方法について（パワー系スポーツ）：グループにおけるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>13. 種目別パフォーマンス向上の具体的方法について（持久系スポーツ）：グループにおけるプレゼンテーション、質疑、ディスカッション</p> <p>14. 種目別パフォーマンス向上の具体的方法について（その他スポーツ）：グループにおけるプレゼンテーション、質疑、ディスカッション</p> <p>15. まとめ</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 野坂和則，沼澤 秀雄（編）（2016）ハイパフォーマンスの科学-トップアスリートをめざすトレーニングガイド，ナッブ
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時に配布する場合がある</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート（60%）</p> <p>第11回までの毎回最後に実施する小レポート（20%）</p> <p>プレゼンテーションにおける貢献度およびその後のディスカッションにおける理解度や積極性（20%）</p>

授業科目名：グループ 運動指導特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木（松本） 智子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動プログラムを作成できる。 2. 運動プログラムを指導できる。 3. 良いプログラムや良い指導がわかる。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業の目的は、エアロビクスメインエクササイズのプログラム作成方法を理解することである。エアロビクスレッスンは、一般的にウォーミングアップ、メインエクササイズ、クールダウンで構成されるが、その中のメインエクササイズについて、8カウント×4(32カウント)(右リード)のコンビネーションを作り展開する方法を実践的に学ぶ。まずは、運動プログラムの指導練習を行いキューイングや対面指導など基本的な指導技術を学ぶ。その後、運動プログラムの作成方法を学ぶ。すなわち、各自オリジナルのコンビネーション（振付）を作成し、展開（ブレイクダウン）方法を考え、指導できるようにする。また、作成したプログラムについて、受講者間で議論し、よりよいプログラムについての理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ローインパクトのステップの種類と特性を理解する 2. ハイインパクトのステップの種類と特性を理解する 3. 決められた運動プログラムを指導する練習(1) 運動プログラムを動いて見せることができる 4. 決められた運動プログラムを指導する練習(2) 視覚的な指示が出せる 5. 決められた運動プログラムを指導する練習(3) 言語による指示が出せる 6. コンビネーションを作る 7. コンビネーションの展開（ブレイクダウン）を考える(1) コンビネーションの強度調整 8. コンビネーションの展開（ブレイクダウン）を考える(2) コンビネーションの難度調整 9. コンビネーションの展開（ブレイクダウン）を考える(3) レイヤリング方法 10. コンビネーションの展開（ブレイクダウン）を考える(4) アドオン方法 11. よいプログラムについて考える(1) グループごとに指導者役、参加者役を体験する 12. よいプログラムについて考える(2) コンビネーションや展開方法について議論する 			

13.自身のプログラムの見直しと指導練習 動きの注意や説明、参加者の観察と修正

14.実践的に指導する(1)

15.実践的に指導する(2) よりよい指導を目指して

テキスト

必要に応じて適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

鈴木智子「エアロビクス指導教本」(2016年、明和出版)

沢井史穂 編著「ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論」(2014年、日本フィットネス協会)

学生に対する評価

【成績評価の方法】

1. 授業への参加度 (30%)

2. 意欲・上達の度合 (20%)

3. 理論の理解と実践能力 (50%)

なお、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

【成績評価の基準】

学修到達目標に達しているかどうか単位認定の基準となり、東洋大学の成績評価の基準に準拠する。

授業科目名：体育・スポーツ教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平野 智之 担当形態：講義 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、体育科教育学・スポーツ教育学の分野において、これまでに明らかにされた知見を再検討することを通し、この分野の新たな課題を抽出することを目的とする。そこで得られた知見を踏まえ、中学校および高等学校保健体育科の目標、内容、方法、評価および関連事項に精通し、体育授業の主体的実践者として一定の指針を持てるようになることをめざす。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体育科教育学・スポーツ教育学の成り立ち、何を研究の対象とするのか、どのような研究領域があるのかなどの「体育科教育学・スポーツ教育学とはどのようなものか」に関して解説する。その後、関連する学術論文等の知見から、具体的で身近な体育・スポーツ教育における問題に接近し、その問題について協議することを通して体育・スポーツ教育の新たな課題を抽出する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：スポーツおよび体育の概念</p> <p>第3回：教科としての体育科の成り立ち</p> <p>第4回：体育科の教科目標論</p> <p>第5回：体育科の教科内容論</p> <p>第6回：体育科の学習指導・支援論</p> <p>第7回：体育科の学習評価論</p> <p>第8回：体育科の授業研究（行動科学的アプローチ）</p> <p>第9回：体育科の授業研究（構成主義的アプローチ）</p> <p>第10回：体育教師論</p> <p>第11回：授業デザインの視点（関係づくり）</p> <p>第12回：授業デザインの視点（動きづくり）</p> <p>第13回：課題1：授業デザイン（ゴール型・ネット型・ベースボール型）</p> <p>第14回：課題2：授業デザイン（器械運動・陸上競技）</p>			

第15回：総括

※上記授業計画に変更がある場合、ToyoNet-ACE等を通じて担当教員より随時履修者に変更内容を提示する。

テキスト

適宜、配付する。

参考書・参考資料等

月刊 体育科教育、大修館書店

岡出美則ほか 体育科教育学入門（三訂版）、大修館書店

日本体育科教育学会 体育科教育学研究ハンドブック、大修館書店

岡出美則ほか 新版 体育科教育学の現在、創文企画

学生に対する評価

プレゼンテーション（70%）、討議内容（30%）

授業科目名：体育・スポーツ指導実践特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平野 智之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体育・スポーツの指導における「実践的な知」に関する深い理解を通して、体育・スポーツ指導への認識を再構築することを目的とする。主に中学校・高等学校の体育授業における授業デザインについて、体育・スポーツに関する諸科学の理論を踏まえ、その目的、内容、方法および評価に関する理解を深めることを通して、体育の授業に活用できる実践的な指導力を養うことをめざす。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校・高等学校の体育授業で実施する運動領域から、取り上げる運動と学習指導のテーマを決定し、そのテーマを実現するための学習内容について検討する。その学習内容を子どもたちの学びに即した「教材」となるように具体化する。この一連の過程をまとめ、各自がプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションで提案された学習内容・教材などに関して協議することを通して体育・スポーツ指導への認識を再構築する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：体育科の授業デザインの考え方（関係づくり）</p> <p>第3回：体育科の授業デザインの考え方（動きづくり）</p> <p>第4回：体育科の授業デザイン：ゴール型（タグラグビー）</p> <p>第5回：体育科の授業デザイン：ゴール型（アルティメット）</p> <p>第6回：体育科の授業デザイン：ゴール型（ハンドボール）</p> <p>第7回：体育科の授業デザイン：ネット型（バドミントン）</p> <p>第8回：体育科の授業デザイン：ネット型（バレーボール）</p> <p>第9回：授業デザイン：関係づくりのまとめ</p> <p>第10回：体育科の授業デザイン：器械運動（マット運動）</p> <p>第11回：体育科の授業デザイン：器械運動（跳び箱運動）</p> <p>第12回：体育科の授業デザイン：陸上競技（ハードル走）</p> <p>第13回：体育科の授業デザイン：器械運動（リレー）</p> <p>第14回：授業デザイン：動きづくりのまとめ</p>			

第15回：総括

※上記授業計画に変更がある場合、ToyoNet-ACE等を通じて担当教員より随時履修者に変更内容を提示する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

月刊 体育科教育、大修館書店

岡出美則ほか 体育科教育学入門（三訂版）、大修館書店

日本体育科教育学会 体育科教育学研究ハンドブック、大修館書店

岡出美則ほか 新版 体育科教育学の現在、創文企画

学生に対する評価

プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）

授業科目名：アダプテッド体育・スポーツ特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金子 元彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 「アダプテッド体育・スポーツ」領域の全体像を理解し、議論することができる。 「アダプテッド・スポーツ」や「障がい者スポーツ」の視点から「体育」を捉え直し、インクルーシブな教育やインクルーシブなスポーツのあり方を巡る今日的課題について理解し、議論することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「アダプテッド・スポーツ」の全体像について解説したうえで、特に「障がい者スポーツ」に重点を置きながらアダプテッド・スポーツ的な視点の醸成をはかる。その際には、アダプテッド・スポーツや障がい者スポーツに付随する種々の問題を多角的に検討することとし、そこで養われた視点から、「体育」を捉え直し、インクルーシブな教育やインクルーシブなスポーツのあり方を巡る今日的課題について議論することとしたい。</p> <p>本科目ではアダプテッド体育・スポーツを考える前提として、日本における障がい者スポーツの移入や発展の歴史を把握しておくことは必須であることから、それらを学ぶとともに障害者福祉と教育行政との接近と離隔についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション（授業の全体像を把握する） アダプテッド・スポーツ、障がい者スポーツ、およびインクルーシブ体育に関する受講生間の情報交換を題材に導入を図る アダプテッド・スポーツと障がい者スポーツ 障がい者スポーツのはじまり 障害者福祉行政と教育行政の接近と離隔 パラリンピック インクルーシブ体育の現状と課題 身体障害者とスポーツ 知的障害者・精神障害者とスポーツ アダプテッド体育・スポーツと障がい者スポーツ指導者養成 障がい者スポーツを体験する（実技：アイマスク等） 			

- | | |
|-----|----------------------------|
| 12. | 模擬体験・疑似体験の意義についての検討 |
| 13. | インクルーシブ体育における工夫（創案） |
| 14. | 受講生によるインクルーシブ体育の草案を題材に議論する |
| 15. | まとめ |

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

齊藤まゆみ編著（2018）：教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学．大修館書店

谷釜尋徳編著（2019）：オリンピック・パラリンピックを哲学する．晃洋書房

学生に対する評価

東洋大学の評価基準に準拠し、学修到達目標に挙げた項目に対応して評価します。

- ① 基本的に通常の授業への取り組み（発言、議論、関連する簡易なレポート等：70%）を中心に評価します。
- ② 期末には授業全体を通じて、受講生自らがテーマ設定をし、それについてレポートします（30%）。
- ③ 出席そのものを直接的に評価することはないが、出席状況は①の頻度や質には関わるので、そこに内包されるものとする。

授業科目名：アダプテッド・スポーツ指導特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金子 元彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 「アダプテッド・スポーツ」に関わる全体像を理解し、議論することができる。 「アダプテッド・スポーツ」の指導に関わる課題を発見し、それについて議論することができる。 「アダプテッド・スポーツ」の指導に関わる課題に対して、その解決に向けた理論的な枠組みや方法論について提案することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「アダプテッド・スポーツ」や「障がい者スポーツ」の全体像について解説したうえで、特に「障がい者スポーツ」に重点を置きながら、関連する指導論、指導者論、および指導法について議論する。</p> <p>アダプテッド・スポーツや障がい者スポーツに付随する種々の問題を多角的に検討することを通じて養われた視点から、「アダプテッド・スポーツ指導」を捉え直し、そこに存在（残存）する今日的課題について議論することとしたい。</p> <p>本科目ではアダプテッド・スポーツ指導を考える前提として、日本における障がい者スポーツ指導者養成について把握しておくことは必須とあることから、それらを学ぶとともにアダプテッド・スポーツ（≒障がい者スポーツ）に本質的に内包される多様性についても考える。具体的には、たとえばリハビリテーションとしてのスポーツと競技としてのスポーツを考えること等である。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション（授業の全体像を把握する） アダプテッド・スポーツ、障がい者スポーツに関する受講生間の情報交換を題材に導入を図る アダプテッド・スポーツ指導の範囲 現代におけるコーチングの概念とアダプテッド・スポーツ 身体障害者へのスポーツ指導 知的障害者へのスポーツ指導 精神障害者へのスポーツ指導 アダプテッド・スポーツ指導における動感を巡る問題（運動学とアダプテッド・スポーツ指導） 日本における障がい者スポーツ指導者養成の変遷 			

10. スポーツ指導者のさまざまな学びの形態
11. アダプテッド・スポーツ指導とコミュニケーション
12. アダプテッド・スポーツ指導を巡る今日的課題と研究テーマ
13. アダプテッド・スポーツ指導を巡る研究テーマに迫る研究法の検討
14. 第12回および第13回を下敷きとした議論と期末レポートテーマの検討
15. まとめ

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

内山治樹・小谷究編著（2017）：バスケットボール学入門．流通経済大学出版社．

谷釜尋徳編著（2019）：オリンピック・パラリンピックを哲学する．晃洋書房．

福永哲夫・山本正嘉（2018）：体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方．市村出版．

小林多寿子・浅野智彦編著（2018）：自己語りの社会学．新曜社

学生に対する評価

東洋大学の評価基準に準拠し、学修到達目標に挙げた項目に対応して評価します。

基本的に通常の授業への取り組み（発言、議論、関連する簡易なレポート等：70%）を中心に評価します。期末には授業全体を通じて、受講生自らがテーマ設定をし、それについてレポートします（30%）。

授業科目名：比較身体表現特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細谷 洋子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エスニックスポーツ、国際スポーツ、ニュースポーツ、レクリエーションスポーツ、エスニックダンス、フォークダンス等の各種身体表現の枠組みについて定義を説明できる。 2. グローバリゼーションにおける各種身体表現の変容について説明できる。 3. グローバリゼーションにおける各種身体表現の役割と課題について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、生涯スポーツの振興とグローバリゼーションにおける各種身体表現（エスニックスポーツ、国際スポーツ、ニュースポーツ、レクリエーションスポーツ、エスニックダンス、フォークダンス等）について、国内外の事例を概観し、各種身体表現の比較を通じて、役割と課題について検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 各種身体表現の拡がりとは定義 3. 欧米やアジアにおけるレクリエーション振興 4. 生涯スポーツの理念と日本におけるレクリエーションダンス（フォークダンス）の普及 5. エスニックスポーツから国際スポーツへの変容 6. エスニックダンス（民族舞踊）とフォークダンス（民俗舞踊） 7. 日本のエスニックダンス・フォークダンス 8. 中間発表と質疑応答 9. 身体表現の社会的機能 10. アイデンティティと身体表現 <ol style="list-style-type: none"> 11. 地域振興・観光振興と身体表現 12. 対象に応じた身体表現の教材化 13. グローバリゼーションにおけるレクリエーションスポーツの在り方 14. 研究発表と質疑応答 15. 振り返りとまとめ 			
テキスト			

授業時に提示する。

参考書・参考資料等

寒川恒夫（2017）『よくわかるスポーツ人類学』ミネルヴァ書房

Niko Besnier他（2020）『スポーツ人類学：グローバルゼーションと身体』共和国

遠藤保子（2020）『映像で学ぶ舞踊学—多様な民族と文化・社会・教育を考える』大修館書店

学生に対する評価

授業中の発言(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート課題(30%)、2回の発表の出来栄え(30%)を総合的に評価する。東洋大学の成績評価基準に準じる。

授業科目名：スポーツ マネジメント特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 玲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義のテーマはスポーツをマネジメントやマーケティングの観点から考察することであり、学術的なスポーツマーケティング研究のあり方について理解する。</p> <p>当科目の履修を通して、受講生には以下の到達目標を定める。</p> <p>(1) 国内のスポーツビジネス産業発展に向けて、スポーツマネジメント・マーケティングの重要性及び知識を習得すること。</p> <p>(2) スポーツマネジメント・マーケティング研究に含まれる概念と手法を理解すること。</p> <p>(3) 海外事例を通して、国際的な社会課題を学び、スポーツを用いた解決策を提案することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>政府は2025年までにスポーツ産業を15兆円まで拡大することを目標としており、産業拡大に向けて様々な取組が行われている。本講義ではスポーツをマネジメント・マーケティングの観点から捉え、産業の拡大・発展のための方策について知識を習得する。さらに、国内だけに留まらず、海外でのマネジメント事例を紹介することで、国際的な観点を養う。これらの事象について理論を用いて考察することを試みることによって、スポーツマネジメントを多角的に捉えることを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：スポーツビジネス産業とスポーツ消費</p> <p>第3回：スポーツマーケティングの定義</p> <p>第4回：スポーツプロダクトとスポーツサービス</p> <p>第5回：スポーツ消費者</p> <p>第6回：マーケティングofスポーツ（ラグビーのケーススタディ）</p> <p>第7回：スポーツイベント</p> <p>第8回：マーケティングthroughスポーツ（スポーツ都市さいたまのケーススタディ）</p> <p>第9回：スポーツツーリズム</p> <p>第10回：スポーツマーケットExpansion（スノーリゾート形成のケーススタディ）</p>			

第11回：アメリカのスポーツマーケティング

第12回：ヨーロッパのスポーツマーケティング

第13回：アジアのスポーツマーケティング

第14回：学生によるグループプレゼンテーション (1) (受講者グループ①)

第15回：学生によるグループプレゼンテーション (2) (受講者グループ②)

テキスト

2020年度スポーツ産業の成長促進事業「実践的スポーツ経営人材育成カリキュラム開発支援事業」報告書 (Case1, Case7, Case10)

参考書・参考資料等

Routledge Handbook of Theory in Sport Management (Edited by G. B. Cunningham, J. S. Fink, A. Doherty, Routeledge)

学生に対する評価

毎回の授業後に提出するリアクションペーパー (30%)、主体的な授業参加度 (10%)、グループプロジェクトによる発表 (30%)、グループプロジェクトによるレポート (30%)

授業科目名：スポーツ 心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江田（宮田）香織
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
スポーツ心理学における主要な知識や研究を理解し、自身の体育、スポーツ活動の中で実践し、体験的な理解へとつなげる。そして、運動・スポーツ場面において、スポーツ心理学的な支援を実践できるようになることを目指す。			
授業の概要			
本講義では、前半にスポーツ心理学の基本的なテーマについて概観すると共に、後半においては応用・実践的なテーマについて論じていく。具体的には、前半では、心と体のつながり、スポーツにおける動機づけ、スポーツとパーソナリティ等のテーマについての講義を行う。後半は前半の知識に基づき、メンタルトレーニング、スポーツ選手の心理臨床的諸問題（例えば、バーンアウト、食行動異常、競技引退後の再適応など）、スポーツと人格形成、運動とメンタルヘルスなどについて、事例等を用いながら実践的に学ぶ。			
授業計画			
第1回 オリエンテーションおよびスポーツ心理学について 第2回 運動・スポーツにおける心身相関 第3回 運動・スポーツにおける動機付け（メカニズムおよび理論） 第4回 運動・スポーツとメンタルヘルス 第5回 運動・スポーツとパーソナリティ 第6回 運動学習（メカニズムおよび理論） 第7回 コーチングの心理学 第8回 スポーツと集団 第9回 スポーツメンタルトレーニングの方法（メンタルトレーニング総論） 第10回 ケーススタディ1：メンタルトレーニングによる心理サポート事例 第11回 スポーツカウンセリング総論 第12回 スポーツ障害に対するスポーツ心理学的理解および支援 第13回 ジュニア期のスポーツと心理的発達 第14回 ケーススタディ2：バーンアウト、食行動異常、競技引退後の最適応等事例 第15回 振り返りおよびまとめ、期末試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

アスリートの心理臨床：2004（中込四郎著、道和書院）

スポーツ心理学事典：2008（日本スポーツ心理学会編、大修館書店）

臨床スポーツ心理学：2013（中込四郎著、道和書院）

スポーツパフォーマンスの心理臨床-アスリートの身体から心へ：2021（中込四郎 編著、岩崎学術出版）

学生に対する評価

授業の到達目標に応じた期末試験60%、授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換等への参加状況40%とし、総合的に評価する。

授業科目名：アスレティックコンディショニング特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 二橋 元紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：アスレティックコンディショニングに関わる要因とスポーツ現場にて実践するためのシステムについて概説する。特にスポーツ外傷・障害からの回復過程および段階的なリコンディショニング方法を解説する。実際のスポーツ外傷・障害に対して実施されるリコンディショニングとリコンディショニング研究について解説する。</p> <p>到達目標： アスレティックコンディショニング特論Ⅰを踏まえ、その発展としてのリコンディショニングの意味と具体的な項目、方法が実施できる。リコンディショニングに関わる専門的な用語が理解できる。リコンディショニングに関する研究論文について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アスレティックコンディショニング特論Ⅰでの学び（体力的な視点によるコンディショニングとスポーツパフォーマンスの関係）を発展させ、特論Ⅱではスポーツ現場での「リコンディショニング」とはどういった意味であるかをさらに深く理解することを目的とする。そのため、リコンディショニングについての概念と関わる要素、具体的な内容を学習していく。特に、スポーツ外傷・障害別の段階的なリコンディショニング方法を部位別および競技特性を踏まえながら議論し、考察していく。また、この領域における研究方法についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の進め方について説明</p> <p>第2回 概論：リコンディショニングとは</p> <p>第3回 概論：リコンディショニングの基礎知識</p> <p>第4回 運動療法の基礎</p> <p>第5回 可動域改善について</p> <p>第6回 筋力改善について</p> <p>第7回 神経系の改善について</p> <p>第8回 運動性について：並進運動</p> <p>第9回 運動性について：回転運動</p> <p>第10回 外傷障害別のリコンディショニング：体幹～下肢</p>			

- 第11回 外傷障害別のリコンディショニング：体幹～上肢
- 第12回 競技特性に基づいたリコンディショニング：体幹～下肢
- 第13回 競技特性に基づいたリコンディショニング：体幹～上肢
- 第14回 リコンディショニングについての文献研究
- 第15回 文献研究についてのまとめとディスカッション

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

1. スポーツ外傷・障害ハンドブック 発生要因と予防戦略 Roald Bahr, 陶山 哲夫他 医学書院
2. アスレティックリハビリテーションガイド 福林 徹 (編集), 武富 修治 (編集) 2018 文光堂
3. Sports Injury Prevention and Rehabilitation, David Joyce, Routledge 2015

学生に対する評価

1. 授業への取り組み (ディスカッションへの参加) 30%
3. 14回目、に発表 35%
4. 15回目レポート 35%

尚、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

授業科目名：プリベンション実践特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩本 紗由美、江田（宮田） 香織、二橋元紀、太田昌子、 村田宗紀 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：アスレティックコンディショニングを実践するためにはどのような要因が関わっているかを概説する。具体的な予防法を提案するためにコンディショニング不良の原因についてスポーツ科学的視野から解説する。</p> <p>到達目標：アスレティックコンディショニングに関わる要因について理解する。スポーツ現場で起きているコンディショニング不良の原因とその解決方法についてスポーツ科学的視野を持って考えることができる。コンディショニングに関連する問題の予防には多領域の人材が関わっていることを理解する。アスレティックコンディショニングに関する研究論文について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アスレティックコンディショニングの概要とコンディショニング不良について概説する。その後、各論として内科的健康問題（相対的エネルギー不足、貧血、水分摂取）、スポーツ外傷、障害（上肢、体幹、下肢）と心理的なコンディショニング不良の例を取り上げ、栄養学的領域、バイオメカニクスの領域、神経生理学的領域と心理的領域から具体的にどのように予防ができるかについて解説する。アスレティックコンディショニングには多くの要因が関わっており、多角的な視点を持ち、コンディショニングを考える必要があることを学習していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション: 授業の進め方について説明（岩本）</p> <p>第2回 概論：アスレティックコンディショニング概論とその要因（岩本）</p> <p>第3回 内科的健康問題（相対的エネルギー不足）：栄養領域からのプリベンション（太田）</p> <p>第4回 内科的健康問題（スポーツ貧血）：栄養領域からのプリベンション（太田）</p> <p>第5回 内科的健康問題（水分摂取）：栄養領域からのプリベンション（太田）</p> <p>第6回 スポーツ外傷（上肢）：バイオメカニクス領域からのプリベンション（村田）</p> <p>第7回 スポーツ外傷（体幹）：バイオメカニクス領域からのプリベンション（村田）</p> <p>第8回 スポーツ外傷（下肢）：バイオメカニクス領域からのプリベンション（村田）</p>			

- 第9回 スポーツ障害（上肢）：神経生理領域からのプリベンション（二橋）
- 第10回 スポーツ障害（下肢）：神経生理領域からのプリベンション（二橋）
- 第11回 アスリートが陥る心理的問題：心理領域からのプリベンション（江田）
- 第12回 オーバートレーニング症候群：心理領域からのプリベンション（江田）
- 第13回 内科的・外科的健康問題を抱えるアスリート：心理領域からのプリベンション（江田）
- 第14回 プリベンションについてのパネルディスカッション（太田・村田・二橋・江田・岩本）
- 第15回 学生からのプレゼンテーションとディスカッション（太田・村田・二橋・江田・岩本）

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

Reference book コーチ養成課程共通テキスト日本スポーツ協会

予防とコンディショニング アスレティックトレーナー養成課程テキスト 日本スポーツ協会

学生に対する評価

1. 15回目プレゼンテーション（50%）
2. 最終レポート（50%）

尚、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

授業科目名：リコンディショニング&リカバリー実践特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩本 紗由美、江田（宮田） 香織、二橋元紀、太田昌子 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：リコンディショニング・コンディショニングリカバリーを実践するためにはどのような要因が関わっているかを概説する。スポーツ現場で行われているリコンディショニング・リカバリーについて紹介し、その背景をスポーツ科学的視野から解説する。</p> <p>到達目標：コンディショニング不良陥った際のリコンディショニング・リカバリーに関わる具体的方法について理解する。スポーツ現場で起きているコンディショニング不良からの回復についてスポーツ科学的視野を持って考えることができる。コンディショニングに関連する問題の予防には多領域の人材が関わっていることを理解する。アスレティックコンディショニングに関する研究論文について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アスレティックコンディショニング不良が起きた後のリコンディショニング、リカバリーについて概説する。プリベンション実践特論にて内科的健康問題、スポーツ外傷・障害と心理的コンディショニング不良例についてその原因を概説されている。その不良例（相対的エネルギー不足、貧血、水分摂取、上肢・下肢・体幹の外傷・障害、アスリートが陥る心理的問題）に対して回復過程に取り組む具体的方法（栄養指導、トレーニング指導、カウンセリング指導）を解説する。アスレティックコンディショニングには多くの要因が関わっており、多角的な視点を持ち、コンディショニングを考える必要があることを学習していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション: 授業の進め方について説明（岩本）</p> <p>第2回 概論：アスレティックコンディショニング不良に関わる要因（岩本）</p> <p>第3回 内科的健康問題（相対的エネルギー不足）：栄養領域からのリカバリー（太田）</p> <p>第4回 内科的健康問題（スポーツ貧血）：栄養領域からのリカバリー（太田）</p> <p>第5回 内科的健康問題（水分摂取）：栄養領域からのリカバリー（太田）</p> <p>第6回 スポーツ外傷・障害（上肢）：段階的（初期）リコンディショニング（二橋）</p> <p>第7回 スポーツ外傷・障害（上肢）：段階的（後期）リコンディショニング（岩本）</p> <p>第8回 スポーツ外傷・障害（下肢）：段階的（初期）リコンディショニング（二橋）</p>			

- 第9回 スポーツ外傷・障害（上肢）：段階的（後期）リコンディショニング（岩本）
 第10回 スポーツ外傷・障害（体幹）：段階的リコンディショニング（岩本）
 第11回 アスリートが陥る心理的問題：心理領域からのリカバリー（江田）
 第12回 内科的・外科的健康問題を抱えるアスリート：心理領域からのリカバリー（江田）
 第13回 コンディショニングリカバリーのためのシステム（岩本）
 第14回 リコンディショニング&リカバリーパネルディスカッション（太田・二橋・江田・岩本）
 第15回 学生からのプレゼンテーションとディスカッション（太田・二橋・江田・岩本）

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

Reference book コーチ養成課程共通テキスト日本スポーツ協会

予防とコンディショニング アスレティックトレーナー養成課程テキスト 日本スポーツ協会

学生に対する評価

1. 15回目プレゼンテーション（50%）
2. 最終レポート（50%）

尚、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

プリベンション実践特論の受講が終了もしくは同時に受講中であること

授業科目名：バイオメカニクス特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村田 宗紀 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育・保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ヒトの身体運動を理解する上で欠かせない動作分析関連する知識をさらに深め、様々なヒトの動きとそれに関する物理法則を概説する。特にスポーツ現場にて応用できる手法を用いて、様々な運動動作に関わる数値を計測し、その客観的指標をバイオメカニクスの観点から解説する。</p> <p>到達目標：バイオメカニクスの概念を身体動作に適用し、その動きを客観的に理解し、説明ができる。スポーツバイオメカニクスに関わる専門的な用語が理解し、スポーツバイオメカニクスに関する研究論文について議論できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アスリートの動きに関してキネマティクスのおよびキネティクスの分析を行い、技術向上に役立つ動きを考察していく。実際にヒトの動作（走る、跳ぶ、投げる、蹴るなど）を計測し、動作を理解・評価するための変数を選択し、算出されたデータを可視化して解釈する。これらの活動を通して、バイオメカニクスにおける計測方法を学び、様々なスポーツ動作のテクニックを力学的な観点から客観的に考察する能力を培う。そして、運動技術向上のヒントを探る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の進み方の説明）と動作分析の概要</p> <p>第2回 並進運動のキネティクス</p> <p>第3回 並進運動のキネマティクス</p> <p>第4回 回転運動のキネティクス</p> <p>第5回 回転運動のキネマティクス</p> <p>第6回 身体モデル化と関節トルク</p> <p>第7回 力学を通じたヒトの身体運動の解釈</p> <p>第8回 データ測定演習（跳躍動作の測定）</p> <p>第9回 データ分析演習（動作データの処理）</p> <p>第10回 跳躍動作の解析①（地面反力と身体重心の運動）</p> <p>第11回 跳躍動作の解析②（反動動作と腕振り動作）</p>			

第12回 跳躍動作の解析③ (関節角度, 角速度, 関節トルク)

第13回 跳躍動作の解析④ (角運動量と姿勢保持)

第14回 歩行・疾走動作の分析と解釈

第15回 上肢スウィング動作の分析と解釈

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎 (金子公宥 福永哲夫 著、桂林書院)

バイオメカニクス—人体運動の力学と制御 原著第4版 (David A, Winter 著, 長野明紀, 吉岡伸輔 翻訳, ラウンドフラット)

学生に対する評価

1. 第6回目と第13回目のレポート (第6回: 20%, 第13回: 20%)
2. 最終レポート (40%)
3. 授業への取り組み (ディスカッションへの参加) (20%)

尚、授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。

授業科目名：ヘルスプロモーション特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 恭平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1, ヘルスプロモーションの歴史的背景の理解</p> <p>2, ヘルスプロモーションの概念や基礎的理論理解</p>			
<p>授業の概要</p> <p>健康はキュアからケアそしてプロモーションされる時代となった。本科目ではヘルスプロモーションに関する歴史的背景や概念を解説する。また、ヘルスプロモーションに関する理論学習のための図書を紹介するので、それをもとにしたディスカッションを通じてヘルスプロモーションの理論理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 本講義の進行について（ガイダンス）</p> <p>第2回 ヘルスプロモーションの歴史的背景（オタワ憲章～）</p> <p>第3回 ヘルスプロモーションの歴史的背景（国内の健康づくり戦略）</p> <p>第4回 ヘルスプロモーションの歴史的背景（健康増進法以降）</p> <p>第5回 ヘルスプロモーションとWHO</p> <p>第6回 ヘルシーシティーズ</p> <p>第7回 ヘルシーピープル</p> <p>第8回 健康日本21と健康増進法</p> <p>第9回 ヘルスプロモーション理論（行動理論）</p> <p>第10回 ヘルスプロモーション理論（認知理論）</p> <p>第11回 ヘルスプロモーション理論（経済理論）</p> <p>第12回 ヘルスプロモーション理論（関係理論）</p> <p>第13回 ヘルスプロモーション理論（環境理論）</p> <p>第14回 文献詳読をディスカッションによるヘルスプロモーションの理解</p> <p>第15回 総まとめ、レポート・ディスカッション</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

成人看護学 ヘルスプロモーション、大西和子・櫻井しのぶ編、ヌーヴェルヒロカワ
蛸名玲子「ヘルスコミュニケーション」ライフ出版

学生に対する評価

【成績評価の方法】

ディスカッションの内容や作成した資料の内容により評価をする。特に試験は実施しない。

【成績評価の基準】

プレゼンや資料のまとめ方レポートの仕方等についての質的な評価とし、60点以上にて単位を与えます。

東洋大学の成績評価の基準に準拠します。

授業科目名：健康増進 論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神野 宏司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健、 養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 生活機能とは何か説明できる</p> <p>2. 研究デザインを理解し，評価できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>超高齢化社会となった現代にあって健康寿命の延伸は誰にとっても関心のあるところであろう。本科目では健康寿命の延伸を目指した健康づくりのあり方について検討し，健康を創造するための視点を獲得することを目的とする。体力科学，公衆衛生学など基礎学問をふまえつつ，主に身体活動，運動・スポーツが身体的生活機能にもたらす影響，さらに精神のおよび社会的な生活機能，ひいてはクオリティ・オブ・ライフに貢献するためのエビデンスに基づいた健康づくりシステム，プログラムを理解し評価できる様になることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 2) 生活機能とは 3) 身体活動，運動・スポーツと身体的生活機能 4) 身体活動，運動・スポーツと精神的生活機能 5) 身体活動，運動・スポーツと社会的な生活機能 6) エビデンスに基づく健康づくりとは 7) 健康づくりプログラムの検証（有効性） 8) 健康づくりプログラムの検証（有用性） 9) 研究評価の方法（有効性） 10) 研究評価の方法（有用性） 11) 研究論文のクリティカルリーディング（個別対応プログラム） 12) 研究論文のクリティカルリーディング（集団対応プログラム） 13) 研究論文のクリティカルリーディング（地域介入） 14) 研究論文のクリティカルリーディング（政策提言） 15) まとめ 			
テキスト			

適宜紹介します**参考書・参考資料等**

- ・医学的研究のデザイン—研究の質を高める疫学的アプローチ
スティーブン・B. ハリー（編集），メディカルサイエンスインターナショナル
- ・身体活動における研究方法 J.R. トーマス， J.K. ネルソン著 NAP
- ・基礎から学ぶ楽しい疫学 中村好一著 医学書院

学生に対する評価**【成績評価の方法】**

授業時の発表(50%)，レポート(50%)

【成績評価の基準】

東洋大学の成績評価の基準に準拠する。

授業科目名：養護教育 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内山 有子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健、養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 養護教諭の歴史や養成制度、職務内容の変遷などを踏まえた養護教諭の役割や、養護実践活動などを説明できる。</p> <p>2. 児童生徒の健康実態を把握し、学校における個人および集団の健康課題を見つけ出すことができる。</p> <p>3. 養護教諭の役割、保健室経営、保健教育などの理解を深め、養護教諭の専門的機能を用いた問題解決への方法を探求することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校における養護教諭の職務は保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動などと深化している。</p> <p>本授業では、保健室で対応する可能性がある子どもたちの健康問題を広く取り上げ、それらの課題に養護教諭がどのような関わりを持つことで解決策を導くことができるかさまざまな角度から検討を行い、学校における養護教諭の重要性について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 学校保健計画と学校保健活動</p> <p>第2回 学校健康診断①（歴史的背景）</p> <p>第3回 学校健康診断②（現状と課題）</p> <p>第4回 学校における健康評価</p> <p>第5回 教職員の健康と教育活動</p> <p>第6回 学校環境衛生と教育活動</p> <p>第7回 保健教育の基礎とその展開①（保健学習）</p> <p>第8回 保健教育の基礎とその展開②（保健指導）</p> <p>第9回 学校安全の理論と学校保健</p> <p>第10回 スポーツ活動中の事故防止</p> <p>第11回 子どもの体力低下と生活改善</p> <p>第12回 特別支援教育と学校保健</p> <p>第13回 学校給食と食育</p>			

第14回 保健室経営

第15回 学校における健康課題の解決方法（学習のまとめ）

テキスト

中村富美子編著『キャリアアップに活かす！養護教諭のスキルラダー』 ふうろう出版（ISBN：978-4-86186-735-4）

参考書・参考資料等

日本教育保健学会編 『教師のための教育保健学～子どもの健康を守り育てる実践と理論』 東山書房

学生に対する評価

学修到達目標に達しているかどうかを単位認定の基準となる。

東洋大学の成績評価の基準に準拠し、リフレクションペーパーによる理解度（30%）、授業への参加度（30%）、学期末のレポート（40%）により評価する。